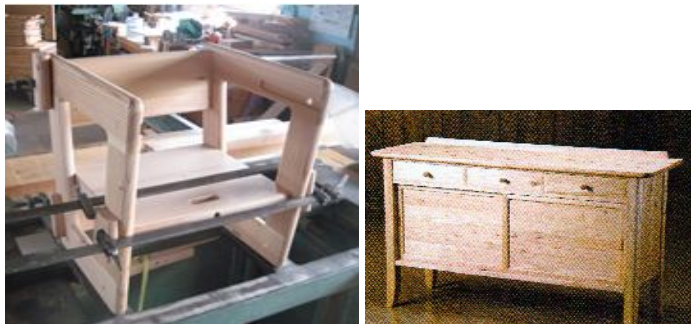


しんしゅう かぐ
信州からまつ家具

長野県知事指定伝統的工芸品
指定年月日：平成26年11月27日



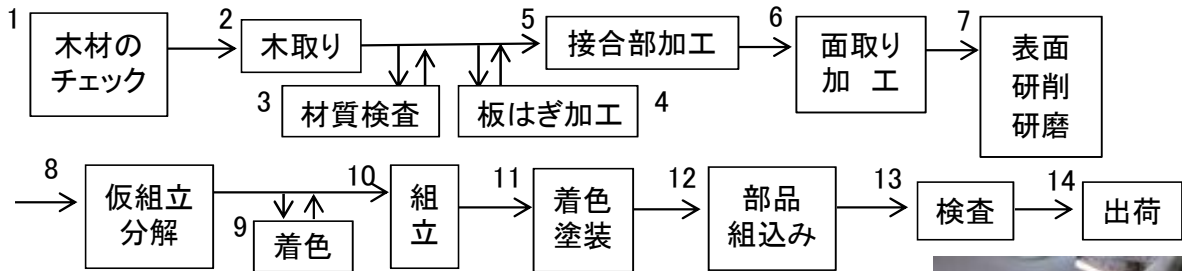
昭和34年頃から、長野県工業試験場におけるカラマツ材の脱脂・加工技術の研究成果をもとに、長野県家具工業会によるからまつ家具の製造が始まった。
昭和44年に「長野県からまつ家具研究会」が発足し、官民一体でカラマツの特徴に応じた部材加工、塗装、組立など製造技術の向上に取り組み、平成16年に「針葉樹家具開発研究会」の設立に発展している。

団体名	針葉樹家具開発研究会	長野県松本市神林2581-1 TEL 0263-86-9473	事業者数 9
主な製品	箱物家具(タンス類、書棚、食器棚、飾り棚など) 脚物家具(テーブル類、チェア、スツール、ベッドなど)		
製造地域	松本市、安曇野市、朝日村、長野市、小諸市、伊那市、千曲市		
伝統的な技術・技法	○部材の接合は、「ほぞ」、「ダボ」、「組接ぎ」等によること。ただし、接合部の補強部材、構造に供さない部材(蝶番、取っ手、座板等)を除く。 ○素地の仕上げはサンドペーパー又はベルトサンダーを用いること。		
伝統的に使用している原材料	○補助材及び補強材等を除き、主要部分は脱脂又はヤニ滲出防止処理及び乾燥・変形防止処理を施した長野県産カラマツの用材を用いること。		

沿革

- ・昭和34年頃から、長野県家具工業会が、長野県工業試験場の研究成果や支援のもと、からまつ家具の製造を奨励したことが始まりと言われている。
- ・長野県工業試験場は、昭和28年頃から、カラマツ材の利用促進のため脱脂技術、加工技術、試作開発の研究に取り組み、昭和34年11月、東京で「新製品信州からまつ家具展示求評会」を行い、全国の家具業界から注目され、一部で都内の有力問屋と取引が進められた。
- ・昭和44年には、「長野県からまつ家具研究会」が発足し、官民一体となってからまつ家具の品質向上、普及に取り組んだ。
- ・平成9年以降、からまつ家具は学童用家具等の公共施設向けを中心として急速に普及した。平成16年には、カラマツに加えスギやアカマツ等の用材による家具の新商品開発・普及を目的に、「針葉樹家具開発研究会」の発足に発展している。

主要製造工程



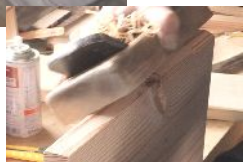
1	木材のチェック	十分に脱脂・乾燥・変形防止処理等をしていること、ヤニツボの有無を確認
2	木取り	木目の出方を考慮して寸法を取り、節や逆目等を除去・調整
3	材質検査	ヤニツボの洗浄、節割れ部のパテ埋め等を行う
4	板はぎ加工	必要な幅とするため接着剤で板を接合し、研削・研磨する
5	接合部加工	部材の接合は、「ほぞ」、「ダボ」、「組接ぎ」等によること
6	面取り加工	逆目を考慮し鋭角とならないよう、面を大きくとる
7	表面研削・研磨	木目に沿って鉋で研削後、サンドペーパー又はベルトサンダーで研磨する
8	仮組立・分解	仮に組み立てて、必要に応じて補正する
9	着色	部材の状態着色剤にて着色、欠陥部の補正も行う
10	組立	接着剤をつけて組み立てる、蝶番等の彫り込みも行う
11	着色・塗装	オイル仕上げ、ラッカー塗装、ポリウレタン塗装、拭き漆仕上げを行う
12	部品組込み	蝶番・取っ手の取り付け、ガラスの設置、椅子の座張り等を行う
13・14	検査・出荷	仕上がり、寸法等を検査して出荷する



ほぞ接合



表面研磨



面取り